

平成28年度 学校自己評価表(報告)

学校運営計画					
学校運営方針	意欲的に自分の夢を育み、その実現に向け確かな学力を身に付けさせ、国際的な視野も備えて、社会に貢献できる人間の育成を目指す。				
昨年度の成果と課題	年度の重点目標	具体的目標			
<b>成果</b> ①国公立大学合格者数は88名に留まったが、東北大学4名など、多数の難関大学合格者を出した。 ②全学年とも組織的な学習指導体制のもと平日講習や土曜講習に取り組んだ。 ③部活動において、弓道部、囲碁将棋部が全国大会、卓球部、陸上競技部、吹奏楽部がブロック大会に出場した。  <b>課題</b> ①学力の向上 50%の生徒がセンター試験で60%以上とれる学力を身につけさせる。 ②目的意識・意欲の形成 3年間を見通した意欲を育てるストーリーの形成。 ③人格の完成 生活習慣の形成、社会事象に対する興味関心の育成、徳育の重視。	計画的な進路探究を通して、進路目標の明確化を図る。	①3年間を見通した進路探究活動と高い志の育成。 ②インターンシップや海外研修によって本物に触れる機会を持たせる。			
	進路目標達成のため、学力の向上を図る。	①基本事項の精査と反復学習の徹底。 ②学習習慣の形成。 ③わかりやすい授業、考えさせる授業、双方向性のある授業の実践。電子黒板をはじめとするICT機器を活用した授業の展開。 ④社会に対する興味関心の育成。			
	・挨拶の励行を基軸に基本的な生活習慣を確立する。 ・部活動・学校行事への主体的な取り組みを通して、健全な精神と粘り強い精神を育成する。	①挨拶の徹底を図る。 ②交通マナーを遵守させる。 ③健康維持と体力の増進を図る。			
	・保護者・地域に向けて情報提供を積極的に行う。 ・地域社会との交流を通して生徒の社会性を培う。	①秋陵会総会、親師会総会や進路講演会、学年懇談会等のあり方を工夫する。 ②ホームページや会報の充実を図り、学校の教育活動を積極的にPRする。			
	具体的目標	具体的方策		評価	
(教務)	授業時間を有効的に使い、確かな学力をつける。	十分な授業時数を確保できる年間行事計画を作成する。	A	B	
	正確な事務処理を行う。	行事予定や日々の日程・時程をわかりやすく提示し、計画的に行動できるようにする。 授業変更を促し、自習時間を削減する。	B		
(生活指導)	基本的な生活習慣を確立し、身だしなみを整え、時間厳守の指導を行い、はじめある生活をさせる。	無断での早退・外出を防止するために必ず届けを提出させる。また、時間厳守の指導を行い、はじめある生活をさせる。	B		A
		各学期はじめに2週間の登校指導を実施し、服装の指導を中心に、挨拶の励行を行う。	A		
	交通マナーを遵守させ、交通安全に努めさせる。	1・2学期に学校付近の主要3ヶ所で約2週間の通学指導を行い、バイク・自転車の乗車マナーを指導する。	A		
		バイク通学に対して、交通安全講話と2回のバイク講習会を実施する。	A		
(生徒会指導)	生徒の自主性を育むため、生徒会係で助言等をし、活動の活性化に努める。	生徒会新聞を発行し、生徒会から新津高校の活動を広く発信する。そして、校外においても、他校との交流を活発にし、自らの活動の輪を広げる。また、地域への発信も積極的に行う。	B	B	
	各種行事の充実を図り、それぞれの生徒が主体的に参加できるよう指導する。部活動への主体的な取り組みを通して健全な精神を育成する。	代議員会及び専門委員会を通して、行事等の説明を分かりやすく伝える。クラブ紹介、クラブ登録、部活動単位での学校行事への参加により部活動の活性化を図る。	A		
(保健環境)	生徒各自が自主的に健康を保持増進する能力と態度を養う。	定期健康診断で健康状態を把握させ、事後処置を行う。	A	A	
		日々の健康観察を行い、それに即した保健指導を実施する。	A		
	清掃美化を徹底し、学習環境の整備改善に努める。	大清掃及び屋外清掃を実施し、校舎内外の美化整備に努める。	B		
		清掃点検を常時行い、平常清掃の徹底を図る。	B		
非常時の適切な対応。	避難訓練を実施し、生徒の安全誘導と人命尊重の精神を養う。	A			
進路実現(進路指導)	①志願率・進学率・達成率の向上 ②国公立大入学者数の維持・増加 ③浪人数減	HRや個人面談、保護者面談を通して生徒・保護者の希望を明確化する。 学力養成のため、長期休業や放課後の講習・補習を充実させる。 昨年作成した進路シラバスに基づいて、進路意識高揚のための行事を計画・実施する。	A	A	
地域との連携(渉外情報)	地域と連携したPTA活動の活性化	PTA総会や各種行事の内容の充実をはかる。	B	B	
	境域活動の情報の発信	会報などを通じて、学校の教育活動やPTA活動を保護者や地域に積極的にPRする。	B		
	図書館活動の充実	購入図書や会報の充実等により、各種利用を促進する。	B		
	図書活動の充実	購入図書や会報の充実等により、各種利用を促進する。	B		
(1学年)	基礎学力の定着	予習・復習を通しての自宅学習時間の確保。	B	B	
	発表力・表現力の育成	生徒自らがテーマを設定し、論理的に考え、表現する力を育成する。またその結果を発表する場を設ける。	A		
	生活指導の徹底	服装・頭髪検査の実施、携帯電話・スマートフォンの適正な使用法、時間や提出物の厳守等の指導を通して基本的な生活習慣の確立を図る。	B		
	文武両道の実践	部活動に多くの生徒を加入させ、学習と部活動を両立させることにより、精神的・身体的な成長を図る。	B		
	生徒理解の充実	時期をとらえて生徒面談を複数回実施する。	A		

(2学年)	基礎学力の定着	自宅学習時間を確保させ、予習・復習・課題に意欲的に取り組ませ、大学入試に対応できる学力を養成する。	A	B	
	発表力・表現力の育成	生徒自らがテーマを設定し、論理的に考え、表現する力を育成する。またその結果を発表する場を設ける。	B		
	生活指導の徹底	頭髪・服装検査の実施、携帯電話・スマートフォンの適正な使用法、集合時間や提出物の期限厳守等の指導を通して基本的な生活習慣の確立を図る。	C		
	文武両道の実践	学習と部活動を両立させることにより、精神的・身体的な成長を図る。	B		
	生徒理解の充実	時期をとらえて生徒面談を複数回実施する。	A		
(3学年)	自己実現に向けての 進路希望の達成	服装・頭髪検査の実施、スマートフォンの適正な使用指導、集合時間厳守や提出物の期限内提出等の指導を通して、節度ある学校生活習慣の確立を図る。	A	A	
		個人面談・個別指導を充実させ、きめ細やかな指導を行う。	A		
		HRや総合的な学習の時間等を通し、自己・社会に対する興味・関心を高める。	A		
		予習－授業－復習のサイクルを学力向上策の中心に据え、加えて各種課題を課すと共に講習を計画し、大学入試を始めとした各種試験に合格できる学力を身につけさせる。	B		
		大学受験に対する意識を高め、学力を向上させる態度を養い、生徒が自主的に学習できるよう指導する。	A		
(国語)	基礎学力の定着と向上	授業内容を充実させ、基礎学力の定着をはかる。	A	B	
		適切な補習を実施し、基礎学力の充実をはかる。	B		
	大学進学に向けた実践力養成	適切な課題をあたえ、応用力をつける。	A		
		適宜補習を実施し、実践力をつける。	B		
(地歴公民)	基礎学力の定着・向上	主体的に探究する姿勢を涵養し、社会的諸事象の基本的な知識と理解力を育む。	B	B	
	大学進学に向けた実践力養成	生徒の受験意識や進路目標について、科目全体で共通理解を持ち、センター試験や二次・記述問題といった対策問題に取り組ませるなかで実践力を養う。	A		
(数学)	入試問題を解く実践的な学力を身につけさせ、5割の生徒がセンター試験において、55%の点が取れるようにする。	各種課題(平日課題・週末課題)および小テストの実施により、基礎学力の定着と向上に努める。	A	B	
		長期休業中や放課後に補習を実施し、成績上位層および下位層のレベルアップに努める。	A		
		センター試験の対策問題に取り組ませ、問題解決能力を磨く。直前には実践問題を繰り返し実施する。	A		
		土曜講習、長期休業中の補習や学習合宿で入試問題演習を行い、入試問題に対応できる学力を身につけさせる。	C		
(理科)	基礎学力の向上	教材開発や授業公開等を通して、指導力の強化と授業改善に努め、生徒の基礎学力の向上を図る。	B	B	
		実験・観察の時間を確保し、結果の吟味を通して生徒の科学的理解を深める。	B		
	大学受験のための実践力養成	夏期・冬期などの補習、特編授業を通して、生徒の受験に対する実践力の養成を図る。	A		
		授業のみならず、放課後等に質問を受けるようにして、生徒の受験に対する実践力の養成を図る。	A		
(保健体育)	保健	個人および社会生活における健康・安全について、理解を深める。生涯を通じて自らの健康を適切に管理し、改善していく資質や能力を養う。	・社会における我が国が抱える健康問題・環境問題等の状況を具体的に把握させる。 ・生涯の各段階における健康・安全に関する課題への対応、保健・医療の制度や機関の適切な活用について理解を深める。	B	B
	体育	基礎的な体力の向上を図る。生涯にわたって積極的に運動に親しむ資質や能力を育む。	・年間を通して、各種目に応じた補強運動や準備運動を実施する。 ・体力向上を目安として体力テストの各種目において全国平均を上まわるようにする。	A	
(芸術)	豊かな情操の育成	・表現や鑑賞に必要な知識と技能を身につけさせる。	A	B	
		・指導の工夫に努め、「聴く力」「見る力」「感じ取る力」および「創る力」を育成する。	B		
(英語)	基礎学力の充実と向上	授業に意欲的に取り組ませ、毎回の授業内容をよく理解させる。	B	B	
		家庭学習(予習、復習、試験準備)を充実させる。	B		
	大学入試に向けた実践力の養成	土曜講習、平日補習や長期休業中の補習を通して基礎学力の充実を図り、進路目標の達成を目指す。	A		
		センター試験や個別大学入試問題の分析・研究を行い、日頃の授業に反映させる。	B		
(家庭)	生活に必要な知識と技術を身につける	食生活と健康の関わりについて理解を深め、実習を通して食の自立のための基礎的な技術の習得を目指す。	B	B	
		家庭と家族の役割を認識し、自立することの重要性を理解させ将来を考えさせる。	A		
成 果	旧帝大への合格、国公立大学80名以上の合格等、学力の充実、進路希望の達成、教科指導・進路指導においては、ほぼ目標を達成できた。生徒指導面については、おおむね落ち着いた状況にあった。今後は電子黒板の活用等をはじめとして、さらなる授業改善を進める中で、取り組みの一層の充実を図りたい。		総合評価 B		